

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階

第91版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

理念実践と振り返り

熊本県にある新明保育園へお伺いしました。

園内では正月という事もあり、獅子舞や大和笛など地域で大切にされてきた伝統文化を先生も子どもたちも一緒に楽しくていらっしやいました。

新明保育園様の理念は「子どもたちの『ふるさと』になる保育園」。地域の見守りに感謝し、その真心や繋がりを子どもたちへ伝承していくことで、日本古来の心を持つ健やかな子どもを育てることを大切にいらっしやいます。獅子舞や大和笛、お餅つきや門松づくり。どれもとっても日本の大切な文化です。

初代理事長の「伝統、文化は子どもたちに繋がなくてはならない。一番大切な日本人の心を伝えたい」という想いをしっかりと受け継ぎながら、どのように子ども主体の保育と

して今の時代に展開し、見守っていくのかと日々奮闘されていらっしやいました。

やってみては、皆で理念から振り返り、改善点を見つけ、来年度に繋げていく姿を見ていると、この振り返りと改善をしていらっしやることも「大切な文化」であり日本人の心を守る実践のように感じます。丸ごと理念を実践する先生方のように私たちも理念を磨いていきたいと思えます。

一緒に楽しむ

東京都にある光徳保育園様へお伺いしました。園では、運動会や発表会など行事の内容を、子どもの関心や発達に合わせて、子ども主体にしようと年々変え続けているようでした。ちょうど訪問時は発表会の1週間前でしたが、園内の階段通路には、発表会7か月前からの子どもたちの様子を記録した掲示物が何枚も貼られ、細かな写真と共に、自由に表現するプロセスが丁寧に説明されていました。

例えば「演劇」だと、子どもの主体性を大事にしながら、題材の絵本には描かれていない役を加えたり、人物を動物に変えてみたりと、子どもたちが皆で考え、その役を全身で表現するシーンが見えてきました。勿論そこには、先生が決めたとおりにやらせようとする不自然さはなく、子どもがやりたいことをのびのびと

選択し、楽しんでいる様子や、子どもたちの表現を引き出せるようにと、先生が楽しみながら寄り添い工夫している姿がありました。「行事は昔に比べ、見栄えの観点からは見劣りする感じもありますが、子どもはイキイキと輝いていますよ」と仰る副園長の秋山先生のお言葉から、子どもを尊重する園の理念が伝わってくるようでした。

保育や仕事の醍醐味は、決めたとおりにスムーズにやることや、上手な結果を出すことではなく、一緒に楽しむプロセスの中にあるということに改めて、教えて頂いた気がします。

「ん？お茶室を見て趣味と言われてしまうのか」と驚きつつ、「趣味ではなく、意図をもってお茶をやっていることを自分の言葉でしっかりと話せるようになりたい」と、それからは「保育所保育指針」を常に持ち歩き、園で行われている保育と指針とを結び付けていったのだそうです。

ギビングツリー主催の「職域別見守る保育セミナー」にて、新宿せいが保育園の西村先生から大変興味深いお話がありました。

意図を伝える

安定、一人一人の子ども自身の疲れが癒されるようにする」という項目に結び付けたり、畳の手触りやお香の香りを表現の項目に結び付けたりと、様々な発達との関連をお話してくださり、お茶室という環境一つからも保育の奥深さが伝わってきました。

園には年間を通して多くの見学者が訪れますが、ある見学者の方が園内のお茶室を見て、「このお茶室は、園長の趣味で作られたのですか？」と質問されたそうです。

これに対して、西村先生は「ん？お茶室を見て趣味と言われてしまうのか」と驚きつつ、「趣味ではなく、意図をもってお茶をやっていることを自分の言葉でしっかりと話せるようになりたい」と、それからは「保育所保育指針」を常に持ち歩き、園で行われている保育と指針とを結び付けていったのだそうです。

その後の発表では、例えばお茶を通して心を落ち着かせることを、保育指針の「情緒の



子どもたちと一緒に門松を作って年神様を迎え、獅子舞に邪気払いをしてもらったり、正月を終えれば年神様を送るために門松や注連縄を持ち寄り燃やしています。子どもたちも先生たちも沢山の実践から見守れています。



発表会当日までどんどん増えていく掲示物。その分「楽しみ」もどんどん倍増していきます！



お点前をできるようにすることが目的ではなく、お茶を通して「めりはり」や「おもてなしの心」を身につけてもらいたいと仰っていました。

CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

地域との繋がり

カグヤでは、昨年4月から福岡県飯塚市で古民家再生を行っています。

先日、「こちらの古民家『聴福庵』にて「おんぶかい」(古民家のある幸袋地区の有志が集まり、地域の発展のため行っている会合)を行いました。昨年9月より月に一度会合を行い、今回は古民家の修復も進んだことから初めて「聴福庵」で行いました。

『聴福庵』は子どもたちに「なつかしいみらい」を遺していく伝承施設を目指していることから、ただ来庵頂くだけでは



大豆を小袋に入れて、潰していきます。



神家総本家謹製聴福味噌



車座になって地域の発展について語られています。



地元の名産を活かした料理でおもてなし！

もつたいない！ということ、今まさに時期である味噌と一緒に仕込みました。仕込んだ味噌は秋頃、会の皆様や来庵頂く皆様と味わえればと思います。古くからある日本の習慣には自然と協力し合う力があることを感じます。また、会合の振り返りで「食事にはメニューがあったほうがいいね」「バイクング形式にしよう」等、おもてなしの改善点が見つかりました。古民家だけでなく、心地よい場づくりを行えるよう、私達自身も磨いていきたいと思えます。

みんな揃って

毎年、年始の初心会議では、「貝磨き」と「年始ご祈禱詣」を行っています。

「貝磨き」とは、それぞれが新年のテーマを二文字決め、貝に彫って、それを磨くという実践です。「年始のご祈禱詣」も、氏神様である熊野神社にみんな揃ってご挨拶に伺う恒例行事なのですが、今年もクルーとパートナーの二人が体調を崩してしまい、参加することができませんでした。

当日の朝、二人が参加できなくて、残念だねえなんて言いながら、神社に出発しようとしたとき……あるパートナーの方が「神社に(参加できなかった)



神社に持参した2人の貝。



集合写真は、2人の顔を合成しました…笑

二人の貝をもつていこう」と提案してくれました。早速、貝を持って神社に伺い、参列席に本人の代わりに貝を並べ、みんなと一緒に祈禱させて頂きました。最後には、なんと神社の神主さんのお計らいで、貝のお祓いまでしてくださいました。

本人がいても、いなくても、いつも繋がっている心を忘れない、仲間の思いやりを感じるワンシーンでした。

小唄を通して

新春のある日、小唄を習っているクルーの発表会があるということで、晴れ姿を応援すべく向かいました。普段味わうことのない伝統芸能独特の雰囲気、ワクワク…。そしていつもとは違うオーラをまとったクルーにドキドキ…。社内でも「円満祝い唄」を披露するクルーですが、小唄を習い始めてからは「小唄が上手くなることもそうですが、小唄を通してもの見方が変わり、「生き方」

一期一会庵

「伝統と伝承」

先日、高知県にある創業明治27年虎斑竹専門店の四代目店主の方とお会いする機会がありました。

半日をかけて古来から先祖が大切にしてきた竹林や、手作業で加工する職人たちのお仕事を見学してきました。この虎斑竹は土佐のある狭い場所だけにしか生息せず、日本の風土で育った貴重な天然記念物の竹です。文化財保護としての天然記念物保存法が発令になったその最初の指定を受けたのがこの虎斑竹だそうです。

その虎斑竹の竹林を見学していたとき、山の中で竹を手作業で切り落としている山人の音が静寂の森に響いていました。なんともいえない懐かしさ、竹林の中の通る風の音との調和に聴き入ってしまいました。その時、竹林を背景に四代目店主が「先祖が歩んだこの道を自分が歩き、毎年必ず恵みを与えてくれる竹と一緒に暮らしていく。こんな仕合せがありますか？それに竹は本当に無限の可能性を持っています！これから益々

までもが変わってきたように感じます。そんな仲間の勇姿を誇らしく思うと同時に、私たちも技を磨くだけでなく、生き方を磨くことを意識して過ごしていきたいと改めて考えさせられる一日でした。



会場は、すみだ北斎美術館。古典と近代の融合です！



声援を送りたくりますが、グッと堪えて見守りました。

発展していきますよ！と明るく熱く語っているのがとても印象的でした。

今は次々と竹のヒット商品を世の中に出し、さらにITを駆使しネット販売で大活躍しておられます。今は竹製品が少ないとか、昔の道具は使いづらいたとか色々世間では言われることもありましたが、竹を「生業」にしている方の楽しそうに伝統と今を語るユニークな姿に日本民族の底力を実感しました。伝統は常に「今」の中、人の「心」の中にこそ伝承されていきます。

子どもたちに伝統と伝承を譲っていくように、私も民族の誇りを忘れずに日本人なら今どう生きるか、その生き方と働き方を突き詰めて日々社業の改善を楽しみながら可能性を広げていきたいと思えます。

●編集後記

いつもご愛読頂きありがとうございます。今月も沢山の一期一会を賜りました。「何のため」を仲間と先生方と一緒に握り合い、理念実践を磨いていけたらと思います。年度末のお忙しい頃ですが、皆様お身体にお気を付けてお過ごしくださいませ。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
(土・日曜祝祭日を除く)